

ビワ新品種「陽玉」と「なつたより」は大玉で食味良好

淡路地域のビワ品種は主に「田中」が栽培されている。この品種は、大玉になり外観は美しいが、食味がやや劣る。近年品種登録された「陽玉」、「なつたより」の淡路地域での果実品質特性について調査した結果、両品種とも「田中」に比べて同等以上の大玉になり、食味も優れていることが分かった。

内 容

当センターの7年生「陽玉」、「なつたより」、「田中」の3品種について、果実を成熟期に収穫し、下表に示した項目について調査した。

収穫期は「田中」に比べ「なつたより」では12日、「陽玉」では5日早かった。1樹当たりの収量は「田中」に比べ「陽玉」では多くなったが、「なつたより」では大幅に減少した。果実重はいずれの品種も60gを超える大果であったが、特に「陽玉」が70gを超える大果になった。果肉は「田中」に比べ、他の2品種は軟らかく、果汁は「なつたより」の糖度が高く、酸含量が低くなり食味良好であった。「陽玉」も酸含量が低く、「田中」に比べ食味が良かった。果皮障害については、「陽玉」でそばかす症の発生が

やや多くみられたが、裂果、紫斑症の発生は、品種間で大きな差はみられなかった。

普及上の注意事項

直売を対象とした良食味品種として、改植や高接ぎ更新による導入を推進する。

「なつたより」は樹勢が強く着花性がやや劣るので、収量増加には立ち枝を水平方向に誘引し着花を促す。また、「陽玉」はそばかす症が発生しやすいため、極大果の摘果、遮光率の高い袋の使用、適期収穫に努める。

宗田 健二 (淡路農技 農業部)

(問い合わせ先 電話：0799-42-4880)

品種別の果実特性 (淡路農技、2010年)

品 種	収穫期 (月.日)	収量 (kg)/樹	果実重 (g)	果 肉		果 汁		果皮障害		
				厚さ (mm)	硬度 (g)	糖度 (%)	酸含量 (g/100ml)	そば かす	裂果	紫斑 症
陽 玉	6.14	8.2	72.4	10.8	284	10.7	0.25	0.8	0.1	0.3
なつたより	6.7	4.3	61.7	9.8	230	12.9	0.19	0.4	0.1	0.1
田 中	6.19	7.7	64.2	9.6	382	10.3	0.34	0.3	0.2	0.2

注) 果肉硬度はユニバーサル硬度計 (径5mmの円筒形針頭使用) による
果皮障害は無:0、軽:1、甚:3として評価した



「陽玉」



「なつたより」



「田中」